

まなびあい

〈学校の教育目標〉

ルールをまもる子
チームワークをつくる子
ベストをつくす子

在籍児童数 562名

秋の夜長に



今年の10月1日は「十五夜」。

十五夜のお月見は平安時代に貴族の間で広まり、江戸時代に入ってから庶民も広く楽しむようになったようです。お月見の風習は地域によって違うのですが、一般的には、秋の七草の一つ「ススキ」（稲穂に似ていて魔除けになる）、「月見団子」（丸い団子を月に見立て、感謝の気持ちを表す）、そして「農作物」（豊作に感謝する）等をお供えするのでしょうか。「中秋の名月」は「芋名月」とも言われています。秋の夜長に、十五夜を楽しめるといいのですが、さて、今夜のお天気はどうでしょう。

また、秋の夜長に読書を楽しむのもいいですね。今、ゲームや動画サイトなどを楽しんでいる子供たちがとても多いようです。それらは、ご家庭で時間などルールを決めて行うようにしてください。読書について、ウォルト・ディズニーは「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも、宝も毎日味わうことができる。」と言っています。いろいろな世界に行ける、いろいろな主人公になれる、いろいろな人の考え方や言葉に触れることができる、国語力や語彙力が高まる、想像力が高まる、等々読書の効果は計り知れません。この秋、ぜひご家庭でご家族全員で毎日わずかな時間でも「読書タイム」をつくられたらいかがでしょうか。

私は、図書室だよりでもお知らせしましたが、ミヒヤエル・エンデの「モモ」という物語が大好きで、初めて手にした時には一気に読み終えてしまいました。『モモ』とは、「灰色の男たち」に盗まれた時間を人間に取り返すため、一人で闘った風変わりな女の子モモの物語です。モモは町のみんなにとってなくてはならない存在だったのですが、それは、モモは相手の話を聞くという他には例のない素晴らしい才能をもっていたからです。ただ話を聞くだけなのですが、徹底して受動的、自分からは何も言わない。モモを相手に話をしていると、相手の中に自分自身の考えが生まれ、悩みが解決されていくのです。ある研究調査で、教師は話を聞いている途中から「そんなことないよ」とか「次はこうしてみたらどうかな」と相談に応えようと自分の考えを次々に提案してしまい、相談している人は、自分の話を受け取ってもらえたという実感が生まれないのだそうです（参考図書「100分de名著『ミヒヤエル・エンデ モモ』」。本校でも、子供の話を本当に聞く力をさらに高めていかなければと思っています。ご家庭ではいかがでしょうか。お子さんの話をどのように聞かれていますか。そこで、秋の夜長にもう一つ。ぜひ、お子さんと話をする時間をこれまでより少し多めにとってみてはいかがでしょうか。受動に徹して聞くことはなかなか難しいことかもしれませんが、試みてください。

今年度も後半となりました。引き続きご支援よろしくお願いいたします。（校長 河野公子）

HP「見て見て みよしっ子」をご覧ください。

今年度は、コロナ禍において、授業参観を実施することができていません。そのため、少しでも学校での子供たちの様子をお伝えできたらと思い、「見て見て みよしっ子」と題し、活動の様子がわかる写真をホームページに毎日アップしています。容量もあるので、5日間の公開後、写真は替わっていきます。特別な行事ではなく、日々の子供たちの様子です。保護者の方々に、子供たちの活動する姿が伝わると幸いです。

○熱中症対策へのご協力ありがとうございました。今後も子供たちの健康を第一に対応してまいります。



○先日、登校時、横断歩道で停止してくださった運転手にお辞儀する6年男児を見かけ、嬉しく思いました。感謝の気持ちを行動に表せる子が増えることを願います。